

全国自動車電装品整備商工組合連合会 会長

紫関雅美氏

しせき せきみ



自動車の高度化に伴い、自動車整備業界では電気の知識、スキルがこれまで以上に求められている。電装品の修理、整備を担う電装品整備事業者で組織される全国自動車電装品整備商工組合連合会(電整連)は、電気のプロフェッショナルとしてスキャンツールの活用で先行してきた。特定整備が施行され、先進運転支援システム(ADAS)搭載車の整備にも高いスキルで対応を進めるなど、自動車整備業界での存在感を強めている。同組合には自動車ガラス修理事業者も加入し、電子制御装置整備の認証取得に動くなど新たな連携強化も図られている。紫関雅美会長に今後の業界で求められる役割や課題について聞いた。

文・清水泰典/写真・岩間浩一郎

電気、通信に特化し、これまで以上に重要な役割を担う電装品整備事業者

サービス業務の売り上げ減 バッテリー、ドラレコなどは伸長

— 長期化している「コロナ禍の電整連加盟店への影響は

紫関 「昨年、組合員へ行ったアンケートによると、経営や景気への影響は少なからずあった。昨年の5月単月は大きく落ち込んだが、それ以降は自動車業界が新車・中古車販売ともに急激に回復した。ただ、コロナに関係なく、メインとするオルタネーター、スターター、カーエアコンなど電装品のサービス業務は減少傾向で、昨年も今年も売り上げは下がっている。これは構造的な要因で、自動車の品質向上に伴い以前より壊れなくなってきたことが挙げられる。一方、バッテリーは落ち込まず、交換需要は増えた」

— カーナビゲーションの取り付け需要は

紫関 「電気通信機器のジャンルで見ると全体では増えているが、そのうちカーナビゲーションは減っている。ETCやカメラもライン装着されるようになり同様だ。一方でドライブレコーダー、通信型の車両管理システムといった商品が増えており、取り付け業務をトータルで考えるとますます順調だといえる」

特定整備認証取得に向けた講習会の開催、 受講人数の拡大へ

— 特定整備の施行から1年半が経過した

紫関 「電整連の約1300社のうちの約50社が特定整備認証の資格を取得しており、今年度中に200社強が取得を予定している。その前提条件となる二養講習会の開催場所を増やし、受講人数を拡大しているところだ。申請の前段階である資格条件取得のための取り組みを昨年から強化し、今年、来年、再来年と、受講者が希望するだけのキャパシティを自動車整備振興会、国土交通省運輸支局の協力を得て進めている。従来一回催20人くらいだったものを2〜3倍の受講生を受け入れられるよう対応している。また、技能検定試験を国交省でも実施してもらえるので、非常に助かっている」

— 全国9万強の認証工場がある中、特定整備認証の取得件数は今年7月末で1万5千件程度、そのうち電子制御装置整備のみを行う「パターン2」は210件という状況をどう見るか

紫関 「少ないと思うが、申請資格はあっても取得がまだというケースもある。電装店ではカーエアコン修理を継続して行っていくためにも認証取得は必要だ。今エアコンの修理はほとんどがインパネ、ハーネス関連を全て外すなど大掛かりな作業になっている。昔のように単純にボンネットを開けて脱着するのではなく、ADASのカメラやセンサー類も外さないと修理できない。戻す際は、スキャンツールで確認する必要がある。資格取得は必須になる。一方、自動車ガラス修理事業者においても商売と直結しているので、今の事業を継続してやっていくためには資格を取得する必要がある。2024年までに取得しないとそ

この線引きが起きているので、危機感は大いと思う。今すぐに動かなくても良いが、会員へは後になると申請が集中して審査が長引くことがあるので、取れる時に取ってほしいと願っている」

教育、研修・講習を重点的に、組合員の期待に応える

—今年10月よりOBD点検も始まる。これからの電装店の役割や可能性について

紫関「安心安全を高めるためカメラ、センサー類などADAS関連の部品が自動車に搭載され、非常に高度化している。これは軽自動車といえども例外ではない。そうした技術に対応する設備、そして人的なスキルが求められている。整備工場がメカニカルとエレキ（電気）、さらに通信機能のコネクテッド分野を含めて全てやっていくことは、今後難しくなるだろう。特にこれから1〜2年で急速に変わり、そのレベルも2、3段階高くなる状況では、学ぶ範囲が非常に多岐にわたる。われわれは電気・通信に特化しているため、今まで以上に必要とされると思う」

—電装品整備業界として、これからチャンスは広がるか

紫関「そのためには教育、経験を積んでいかななくてはいけないし、デジタル化の中では年齢（若手人材）も関係する。その条件を整えた電装店は、ますます業界の中で期待されて頼られ、貢献できると思う。

成、確保もいろいろな案を検討している。ある程度の知見とレベルになると、メーカーの協力を得ないと難しくなる」

—日本自動車ガラス販売施工事業協同組合（JAGU）を含めガラス施工業者が電整連へ加盟しているが、連携のあり方について

紫関「同じ自動車のアフターマーケットでサービスをしている仲間として、私どもの組合に入っている。今は本部の運営委員会、各県の理事会に加わっていただき、いろいろな意見、要望を聞きながらお互い切磋琢磨して、仲良くやっていこうと進めている。違った観点から意見を聞けるので、仕事の役割など活性化の意味で期待している」

次の50年に向け必要な資格、人材のための教育体制を整備

—これからの自動車業界を見据え、電装品整備業の役割は

紫関「自動車が大きく変わる中で電気が関係し、さらにソフトの役割が大きくなる。コネクテッドカーが当たり前になって、緊急的な補修サービスというのは恐らく徐々になくなっていくだろう。電気がメインになれば壊れにくくなるし、壊れてはいけない要素も強くなる。そうなればメインの故障修理を残しつつも、反対に事前点検で壊れないようにする意味合いの点検、診断が二丁目一番地になる。そこを整備業界とし

しかしながらそれは簡単ではなく、やはり整備工場と同様で若年のサービスマンの確保が非常に難しい。その中で電気の知識を持った若い人を採用していくとなるとさらにハードルが高くなる」

—人材育成の支援は

紫関「電整連としては今後の一番大きな役割が教育、研修・講習を重点的にやっていくことだろう。組合員からの期待に応えることが大切なので、その体制作りと研修内容を今後作っていききたいと思う。自動車電気装置整備士の国家資格は、これからの自動車を整備する上で必要だ。新しい高度なシステムを搭載された車を整備して安心安全な社会に貢献することは、これまでの何十倍ものやりがいにつながると思う。若い人には、ぜひやりがいを感じてこの業界に入ってきていただきたいし、そのための環境づくりを組合としてもやっていきたい」

ガラス施工業者の団体加盟など他業界との連携を通じ活性化へ

—業界の課題、団体の課題について

紫関「サービスマンの確保と採用、そして新しい技術のスピード、高度化への対応だ。技術情報については日本自動車整備振興会連合会の『ファイネス』を入手してやっていくのが基本だが、電気・電子の専門教育を子ども組合でさらに強化していかないといけないだろう。その前提で教えられる講師の育

て100%やっていくとすれば、われわれは200%の知見を持って臨むくらいでないとお客様に頼ってもらえないのではないか。その点は20年前からスキャンツールを使った業務を日常的にこなしてきたので、これまでの知見を含めて業界の中で果たせる役割は大きいと思う」

—電整連は今年度創立50周年を迎えた

紫関「50年の区切りは、次の時代への新たな50年という意味でも大きく感じている。今までの50年をリセットして、次の50年に向けて必要な資格、人材のため新たに教育をして構築していかないとけない。先輩方が、業界の中で電気というジャンルで役割を果たしていくために認知を広めながら国家資格に付随する形で組合を作ったが、50年目にして認証に結びつく団体として新たなスタートを切れたのは意義深いと思う」



紫関雅美氏（しせき まさみ）

1974年、横浜市立大学商学部卒業、松下電器産業（現パナソニック）入社。1991年、中村電機商会に入社。2004年、同社社長に就任。09年、愛知県自動車電装品整備商工組合理事長。12年、全国自動車電装品整備商工組合理事副会長。14年から同会長を務める。1951年生まれ、埼玉県出身。

教育、研修・講習を重点的に、組合員、整備業界の期待に応える